

平成29年に特に注意を要する病害虫

あぶらな科野菜のコナガ



コナガ（幼虫）



コナガ（成虫）

これまでジアミド系薬剤はコナガに卓効を示していました。しかし、平成26年には道内でもジアミド系薬剤に抵抗性の遺伝子をもつ個体が発見されました。このため、道内でもコナガ防除にジアミド系薬剤を多用すると、圃場内における抵抗性個体の割合が高まることが確認されています。

ジアミド系薬剤を使うにあたっては、次のことを心懸けて下さい。

- ①連用せず他系統剤とのローテーション散布を行う
- ②散布後は虫がいなくなっているかを確認する
- ③所定の処理量、濃度を遵守する

りんごの黒星病



黒星病（葉の病斑）



黒星病（果実の病斑）

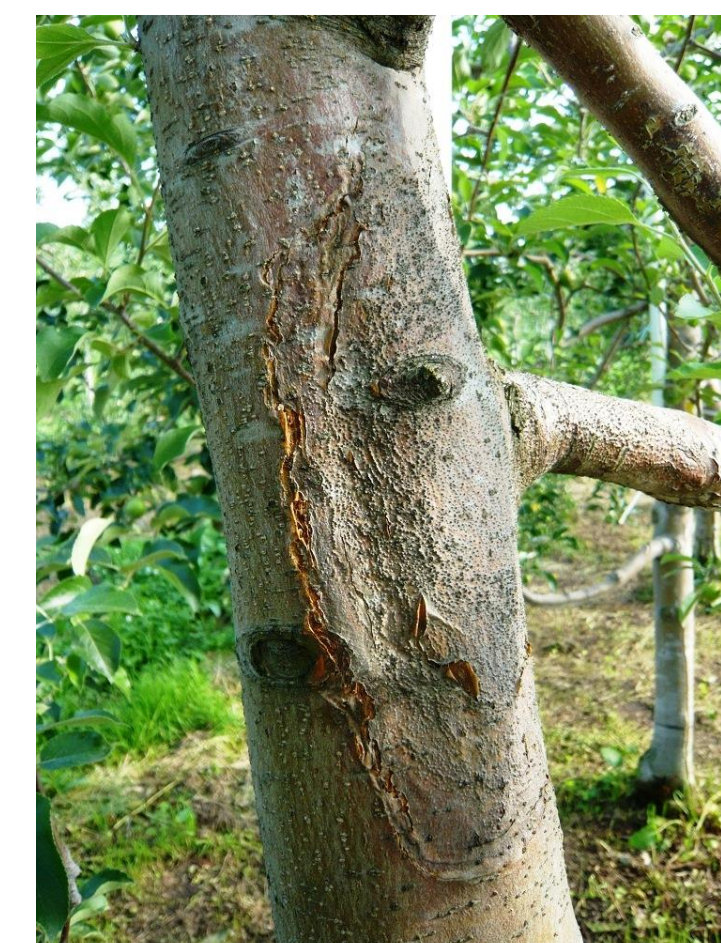
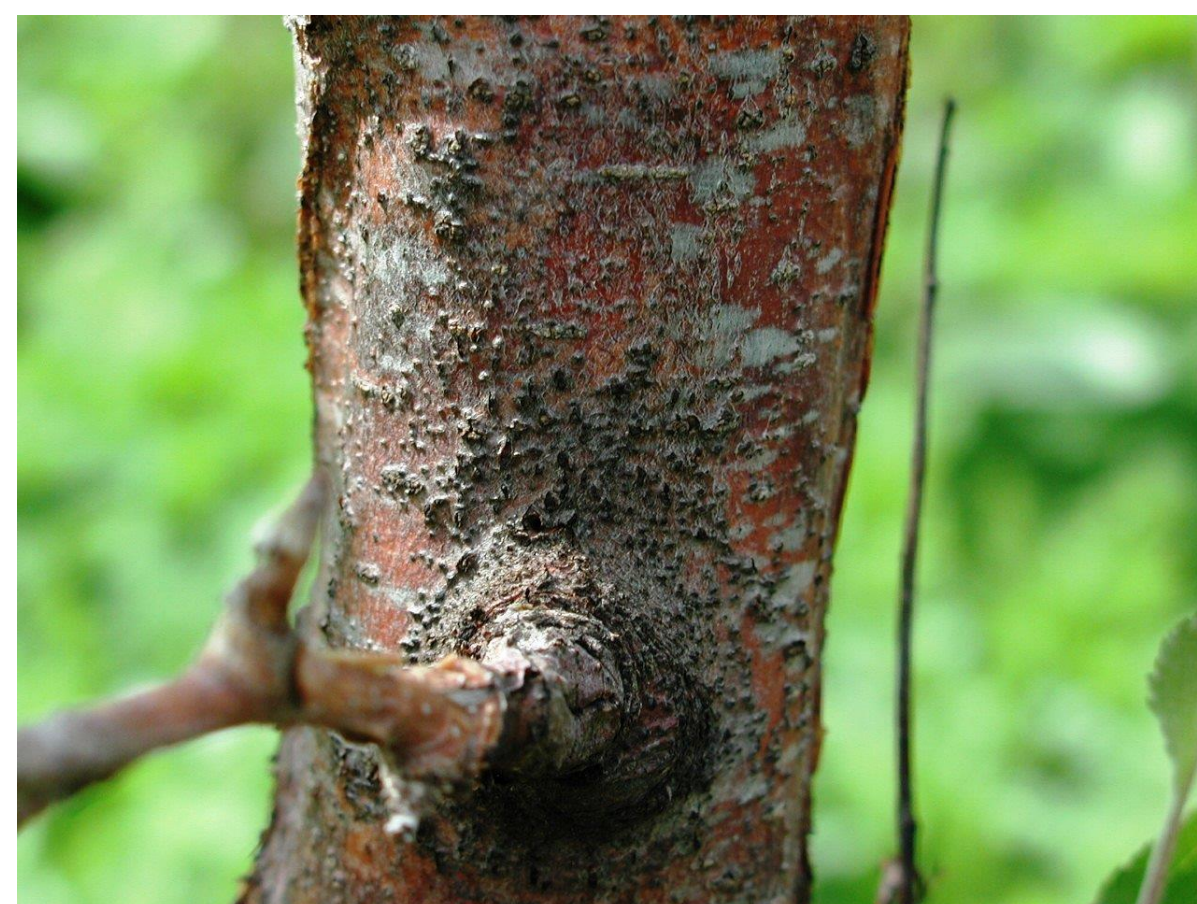
平成28年は、一般園においてもりんごの黒星病による被害が確認されました。

このため感染源となる被害葉が園内に多く残り、29年も多発が懸念されます。

開花始から落花期の重点防除期に加えて、天候不順が続く場合、追加防除を適宜行ってください。

また、青森県では本病の基幹防除薬剤であるEBI剤に対する耐性菌が確認されていますので、EBI剤の連用は避け、他系統剤とのローテーション散布を行ってください。

りんごの腐らん病



腐らん病（胴ふらん）

近年、りんごの腐らん病は多発傾向が続いています。

そのため感染源の密度が高まっていることに加え、凍害による樹体損傷、27年の多収によるなり疲れ、主要品種「つがる」の高樹齢化などが多発生の要因と考えられます。

本病はりんご樹体そのものをだめにしますので、今一度「りんご腐らん病総合防除対策指針」に沿った基本管理の徹底をお願いします。

注意を要する病害虫の詳細は、北海道病害虫防除所のホームページでご確認ください

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
0123-89-2001
Central-agri@hro.or.jp